

ポン・チー・カン

桑森ケイ

舞台は一軒家の一室。
住人が演劇の稽古場として使用しているらしい。
桑森がその部屋を見つけるところから始まる。

舞台明転。

上手から桑森入場。手にドクターペッパーの空き缶を持っている。

舞台上を見回した後、片隅に空き缶を置き、ポケットからタバコとライターを取り出し、置く。
靴下を脱ぎ、それに添える。

もう一度舞台上を見渡した後、身体を置く位置を決め、口を開く。

えー、加茂慶太郎と申します。昼から芝居仲間と麻雀をしております、今は30分の休憩中といったところです。こう、牌と戯れていたら、なんだか実家のことが懐かしくなりました。あいつら3人とも、僕の名前を知りません。うちの3匹の猫も、家を出てから飼われ始めたので僕のことをよく知りません。

……こんな出だしでいってみましょう。川崎市麻生区の一軒家から、開演です。

加茂家。

小田急小田原線読売ランド前駅から坂を登って徒歩5分、4LDKの一軒家。数年前は赤いBMWが停まっていたけれど今はどんな車か知りません。玄関の横にはあまり光合成をしなさそうな貧弱な葉っぱの木が2本。茶色とベージュの間の子みたいな地味な色の2階建て。あまりにもよくある一軒家。親父が35年ローンで買ったいわゆるマイホーム。僕はここで、小学校から高校まで、12年間を過ごしました。K A M O、カモ。

入ってみましょう。

ただいま。

んゝ。んゝね。

3匹の猫がいます。ポン、チー、カン。本当に僕が居なくなってから飼われ始めたので、僕にはどれがポンでどれがチーか分かりません。

父、母、僕、妹、4人が暮らしたこの家も、今はすっかり生気を失っています。

かつてと模様がかわっていてもただいまと言ってしまうのは、ここで過ごした時間が確かにあるからでしょうか。

《温もりの舞》

1分間ほど踊る。

突如やめて、

見知らぬ男が僕を見つめていました。
なぜか英語で、福岡に帰らなくていいのか、と問いました。

福岡にも僕の家があります。

福岡と聞いて、どんなことを想像しますか？

博多弁が可愛い。可愛い子が多い。なるほど、男の子らしい回答ですね。
太宰府天満宮。はい、あります。

祭り。山笠ですね。ああ、どんたくの方ですか。あれはまあ、祭りというか、まあ祭りですね。
海が近い？ はい。東京よりキレイですよ。僕が住んだのは神奈川ですけど。

そんなところですかね。

福岡は……市が多いですよ。市です。市町村の。29あります。

福岡、北九州、久留米、太宰府、糸島、直方、宗像、古賀
飯塚、春日、行橋、柳川、大牟田、福津、大野城
筑後、筑紫野、田川、大川、宮若、みやま、那珂川、中間、嘉麻、朝倉、小郡、豊前、うきは、八女

これで全部です。

福岡県民になりたくて覚えました。

どこがどこにあるのかはよく知りません。

僕の家があるのは福岡です。JR鹿児島本線吉塚駅徒歩3分、普通のマンションの7階ワンルーム。

意外と早く着きましたね。

アクセス良好なコンパクトシティ。これも福岡の特色です。

帰ってきたけど、特になにもありません。いつもの家です。
マンションだし、ここでは踊れませんね。

サイコロが（ポケットに）入ってました。

麻雀と一緒にしてるのはたっちゃん、マー坊、ケン。みんな芝居仲間です。
たまにここで鍋をするか、ケンの家で麻雀をします。

たっちゃんは、ずっと福岡で、春日に住んでて、
マー坊は長崎出身で、演劇はじめたのはわりと最近で、
ケンは実家ぐらしです。

以上！

他のことはよく知りません。多分聞いたことがあるけど覚えてないんです。覚えてないってことは、
きっと重要じゃないってことでもんね。だから、いいんです。

薄情ですか？

お詫びに、歌います。

へ たっちゃん、マー坊、ケン

福岡で知り合った男たち

みんな演劇してる

気のいいヤツら、嫌いじゃない

優しいヤツら、知り合えてよかった

同世代だから仲間

芝居してるから仲間

たまに鍋を食うから仲間

いつもだいたいキムチ鍋
お皿4つ、箸は4膳
別にきつとこの4人じゃなくても鍋は旨い
友人A、友人B、友人Cと呼んでも問題ない
A B C A B C 良いヤツらだけど A B C
俺はもちろん友人Dでいいよ

河川敷に居ますね、気づいたら。皆さんの馴染みの河川敷で結構です。土手があつて、坂があつて、
広くて、緑で、ところどころ茶色い河川敷で結構です。はしゃぎたくなるような、開放感のある河川
敷ならなお良いです。

河川敷は街の外れ。

袋小路の対をなすもの。

袋小路が夢へ誘うとすれば、河川敷が誘うのは現実か。

芝居は、芝の上でやるから芝居なんだと聞いたことがあります。

下賤の者が見せ物をして日銭を稼いでいたんだと別の人から聞きました。

ここにもかつて居たんでしょうか。

大先輩が。

きつとその先達は、ここに立つて、
根っこが生えているかと思ふうほどに立つて、

おめかしをして、これでもかと異世界の住人の姿を借りて、
自己紹介をしたはずです。

おーい！俺だー！

あるいは問うたはずです。

俺は、何だー！

目の前に座る観客たちは、なにを見たのでしょうか。
役者の先になにがあったのでしょうか。

舞台上の大先輩だけが見ることができなかったその景色を、僕も見たくて見たくてたまりません。

ロン。リーピンイーペードライチ。

(裏ドラめくって) ドラドラ。1万2千。

さっきの東3局のアガリは鮮やかでした。
友人Bは悔しそうに点棒をよこします。

パラパラ。

ニヤ。

僕に渡るはずの点棒はどこかに飛んでいきました。
おいおい、ふざけるな、よ。

友人Cの居るはずの対面には、猫が座っています。
その毛色は……3匹のうちの……どれだ。

早くしてよ。

我が妹よ。どうしてそこに座っている。

サイコロ振って。

オーケー。そうかいそうかい。俺はいつからか異種格闘戦に参戦してたんだね。受けて立ちましよう。なんせここは河川敷ですからね、受け入れるしかないでしょう。振りますよ、はい。僕が親ですからね、サイコロを振りますよ。ちょっと受け入れるのに時間がかかってるだけなんです。時空を越えた卓上遊戯、いやはや、自由ですね。ここはぜひとも勝ちたいものです。なにか賭けてましたっけ？ 金はかけてませんよ。僕たち健康少年ですから。はい、はいはい、振りますから。

待てよ、このサイコロを振ったら、対面の猫が、暴れるんじゃないのォー！

はっ。また実家ですか。

た_だいま。

English.

I- m home.

How was the trip to FUKUOKA?

Ah.....別_じべ_い な_いや。

English.

わかんねえよ！

ニヤー。

んゝ。ごめんね。怖いね、誰なんだろうね。

ニヤー。

んゝ？ お腹すいてるの？

ごめんね。キミらのご飯がどこにあるのか俺知らないよ。

Hey, PON.

ニヤー。

KAN.

お_かえ_んだ_ろう。

English.

YOU are friends!

Friends? Yeah, we are friends. You are NOT friends.

.....

Who are you?

Keitaro, Keitaro Kamo.

Keitaro, okay.

Where is CHIE?

CHIE?

Yeah, I know that there are 3 cats.

Yes, I know.

PON, KAN..... Where is CHIE?

I don- t care.

Why?

I don- t know! I- m a friend, but JUST friend, not family. You should know.

Wow! I don- t know too.

Why not?

.....We are not family.

You said = I- m home.=

Yeah, 俺_んぢ_やな_つのかもね。

I know you.
Me?

Yeah, please show me dance.

俺はお前のこと知らないよ。

《未知の舞》

踊る。
踊りながら、

河川敷だと思ってたけど、もしかして夢の中のかな？
最近洋画を観すぎていたし
あんなヤツ知らないし

口笛を吹きながら踊る。

もし夢なんだとしたら、僕はどこへでも行けるということになります。

夢でなくても、どこへだって行けるんだと
かつて芝居で叫んでいた友人Cに、会いに行きましょう。

川崎市麻生区から福岡市博多区まで、ちょうど1000キロあります。

この空とあの空は繋がってるなんてよく言いますから
飛行機で行ってもいいけれど
せっかく夢の中で少し
泳いでいきたいと思います。
20年やってきた水泳の実力を今こそ見せるときです。

Take your marks……

いつまでも鳴らないピストルを待続けた僕の身体は、やがて骨になり、粉々になり、宙を舞って福岡に向かうのでした。

空気中を漂いながら、僕は歌を歌いました。

“あゝ日本のどこかに
私を待ってる人がいる（「いい日旅立ち」作詞：谷村新司）
列島を新幹線が走っています。
あれに乗るのも良かったな。

知らない歌は歌えないので、僕はいくつか歌を作りました。

“僕は花粉
運ばれた先で
おしべが待っているのさ
どんな花が咲くのかな
見てみたいね
キレイだったら教えてね

河川敷では、河川敷という河川敷では、役者が声を張っています。

お前は誰だー！

俺は、俺だー！

街を挟んで、彼らは会話をしているようでした。

袋小路では、袋小路という袋小路では、役人がマスをかいています。尽き果てて寝転んだときに、初めて生を実感する、彼らを嘲る者は誰もいません。

そうです。

彼らは出会うべきです。

夢と現実には誘われたその先で、ガッチリと握手を交わすべきなのです。

彼らだけじゃありません。

世界中の人々は出会うべきです。

海を越え山を越え、あらゆる垣根を超えて河川敷と袋小路が結ばれば、きっと温もりのある世界が実現します。

互いを知り、抱擁を交わすべきなのです。

街中に、愛の抱擁を！

声高らかに宣言する僕を気にする人は、せいぜい花粉症の人間くらいでした。

数万粒に分かれた僕は、ゆっくりと、時間をかけて大地に降り立ちました。

友人は、まだ生きているかしら。

運良く出会うことができたら、抱き合って再会を祝福したい。

すぐ近くに降り立った一人の僕がこう言います。

でも、お前は彼らをよく知らないんだろう？

そうさ、彼らも俺のことを知らない。

それで友人と言って良いのか？

また一人、僕が割り込んできます。

しょうがないだろう、ただか数年の付き合いなんだから。

知らないやつと抱き合うのか。

だから知ってるんだって。

抱き合うことは問題じゃない。

友人と呼んで良いのは……

次々と僕が喋りだします。

抱き合うからこそ知り合えるんじゃないか？

深く知り合うためには時間が必要なんだ

ちょっとでも知っていればもう友達だろう

膨大な時間が必要なんだ

いいから抱擁すればいい

それが本当の願いなのか

世界中が友達になれるわけないだろ

うるせえな

なんだこら

やがて口論は取っ組み合いになり、大勢の僕はちよつとずつ融合して、やがて一人の僕に戻りました。

Hey!

またお前か。

俺が抱きしめてやろうか。

……。

ずっと待ってたんだぞ。

English.

待ちくたびれて日本語が話せるようになってしまったのさ。

そうかい。

振れよ。

サイコロですか。

家族が待ってるぜ。

テーブルには、父、母、そして妹がついています。

ひとたびサイコロを振れば、たっちゃん、マー坊、ケンに変わりました。
もう一度振れば、3匹の猫に。

また振ったら、今度は父、マー坊、そして猫に。

母、たっちゃん、猫、

妹、ケン、猫、

父、たっちゃん、猫、

母、マー坊、猫、

何度も何度も振って、すべての組み合わせを経て、やがて全員消えました。

互いに知り合うはずのない彼らは、確かにテーブルを囲んでいました。

僕には、彼らの抱擁を見届ける義務があります。

世界中の人々と同じように、これは僕だけの、そして僕だけが知っていればいい唯一の義務です。

かつて知らない土地だった福岡に、
いまだ知らない3匹の猫を連れて、
僕は帰ってきました。

ただいま。

気づけば足の裏から根っこが生えています。

ここが、僕の河川敷です。

であれば、やることはひとつしかありません。

未だ知らぬ土地へ、未だ見ぬ人々へ、

いつかの抱擁を夢見て、声を張るしかないでしょう。

俺は――

不意を突かれたように舞台上手袖を向く。

ケン！

休憩終わり？ あ、ちょっと待ってよ。

急いで舞台片隅の荷物をまとめ、舞台から退場。

こないだいい部屋あるの？ 稽古し放題じゃん。

暗転。

終